

令和8年度 学力向上指導改善プラン

学校教育目標 「人とつながりよりよい自己をめざす」児童の育成
～「やさしさ」と「ふるさと高平」を大切に～

目指す子どもの姿「学びいっぱい 友だちいっぱい やさしさいっぱい 高平っ子」
変容を目指す資質・能力 a 知識及び技能 b 思考力、判断力、表現力等 c 学びにむかう力、人間性等 d 情報活用能力
e 課題解決能力 f 学び続ける姿勢 g コミュニケーション能力

三田市立高平小学校
中学校長 中島 剛
研究主体【研究推進委員会】

前年度		継続性	4月			2～3月 年度末評価	
学力向上に向けた 重点的な目標	年度末評価 (前年度の成果と次年度に向けた課題等)		評価	学力向上に向けた重点的な目標 (変容を目指す資質・能力)	成果となる目標 (指標となる数値等)	具体的な行動目標 (成果目標達成のための具体的な手立て等)	教員 点検
主体的・対話的で深い学びの観点からの授業改善	○算数科を中心に授業研究を推進し、根拠や思考過程を大切に授業に取り組んだ。 ○全校集会で豊かな「対話」活動が年間を通して行われ、楽しさの中に相手や自分の良さに気づくとともに、自分の考えを表現することができるようになってきている。 ◆児童アンケートの「学校の勉強はだいたいわかる」の項目では、肯定的評価の割合が低い。本来の「対話」を位置づけた授業を充実させる。	B	「対話」を核とした主体的・対話的で深い学びに導く授業の工夫と実践 (b c e g)	①質問調査で「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の肯定評価が全国平均を上回る。 ②質問調査で「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の肯定評価が全国平均を上回る。	・「学習課題」や「めあて」を明確にし、「対話」を通して、学習を組み立てていく力を育てていくことができる授業作りをする。 ・教科書の文章を根拠にした発言を促し、内容の理解を進める。 ・問題文の意味を的確にとらえるための具体物や半具体物を用いて授業を行う。 ・問題解決的な学習に取り組み、ペア学習、グループ学習を位置づける。 ・特別活動の充実を図り、目的や意図に応じて話す機会を設定して、意欲的な学びの姿勢を高めていく。		
学習内容の定着に重点をおいた取組の推進及び基礎基本の定着	○昼時間の学習タイムによる基礎学力向上の取組については、ICT機器の活用を行い一定の成果が得られた。 ○昼時間の学習タイムやがんばりタイムを継続実施し、個に応じた指導体制と内容を整えていく。	B	基礎学力の定着や予想困難な未来を生きていくために必要な学力の向上 (a d e f)	①全国学力・学習状況調査の平均正答率で、到達度の目安となる全国平均正答率を上回る。 ②質問調査で「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の肯定評価が全国平均を上回る。	・学習タイムの内容を充実し、学習内容の定着とミライシートを活用しながら、基礎・基本の定着を図る。 ・探究的な授業を創出し、自ら課題を設定するとともに解決するための情報収集を行うなど主体的に課題を解決しようとする機会を多くする。		
家庭における学習習慣及び生活習慣の確立・向上	○「学校だより」「元気いっぱい高平っ子」等ホームページを通して、学校の取組や児童の様子を発信してきた。また、保健だよりを通してSC・SSWとの面談日も保護者に知らせ、保護者と繋げていくことができた。今後も、学校と家庭・地域が連携できるよう、詳しく丁寧な情報発信を行う。	A	家庭における自学の習慣及び生活習慣の確立・向上 (c f)	①学校評価の保護者アンケートにおいて「子どもは、自ら進んで学校の宿題や調べ学習をしている。」の項目で肯定的評価が昨年度より上回る。 ②学校評価の保護者アンケートにおいて「掃除や整理整頓」「丁寧な言葉遣い」の項目で肯定的評価が昨年度より上回る。	・学年通信等を通して、家庭学習の啓発を図る。 ・保健指導・保健室通信・学校だより・HP・学級指導等を通して、生活習慣や健康に関する情報を発信し、各家庭の理解と協力を求めていく。		
学校を核とした地域連携プログラムの構築	○長期休業中の貸し出し冊数を増加させ、図書委員会の本の宣伝(ポップ作り)や読み聞かせ、ポスター作りを実施したり、学校司書による読み聞かせ時間の創出や担任と連携した調べ学習における図書室の利用を促進させた。 ○毎月23日の家庭読書の日と連動して、図書ボランティアによる全学年の読み聞かせ活動を実施できた。今後も図書委員会、司書の先生を中心とした、学習タイムでの読書時間を行い、読書習慣の定着をめざす。	B	読書活動のさらなる充実 (a c d)	①図書室の本を年間100冊以上借りる児童の割合が昨年度を上回る。 ②質問調査で「読書は好きですか」の肯定評価が全国平均以上となる。 ③学校評価の保護者アンケートの「子どもは自ら進んで読書しようとしている」の項目で昨年度を上回る。	・学校司書と連携し、各教科学習の学びと読書活動を結びつけた取組を推進する。 ・学習タイムでの読書活動や宿題として読書時間を設定し、毎月の家庭読書の日を充実させる。 ・図書委員会の活動で本に親しむようなイベントを企画し、全校生へ読書に関心を持たせる。		
通信やHPを活用した積極的な情報発信及び地域と連携した、児童を見守る環境整備	○学校、家庭、地域が連携した教育活動を推進してきた。2年生の校区探検では、ICT機器を用いて高平マップを作成し、児童の学びを地域にも発信できた。今後も「ふるさと高平」とともに歩む学校づくりに努めていく。	A	コミュニティスクール推進による学校、家庭、地域の連携体制の充実(c e f g)	①学校地域運営協議会と連携して、学校を核とした地域連携プログラムを構築する。	・地域を学習の場とした探究的活動や体験活動の充実を図り、児童が地域の魅力に触れる機会を増やす。		
小・中における教科連携等の充実	○外国語授業や6年生授業の参観等を行い、生活面だけでなく学習面においても小・中連携に取り組めた。 ◆中学校が作成した共通の学習の手引きを周知し、復習から自主的な学習へつながる家庭での学習習慣の確立を行う。	B	子どもの学び・支援の連続を見通した学校園所連携体制の充実 (c g)	①上野台中学校区内の4小学校との合同で実施する学習の場を年間に位置づけ開催する。 ②中学校の教員を招聘した授業を年間1回以上開催する。 ③小中連絡会を年間2回開催する。	・中学校区の「学習の手引き」を活用するとともに、各学年の家庭学習の時間を示し、復習から自主的な学習へつながる家庭での学習習慣の確立をめざす。 ・全国学力・学習状況調査及び児童生徒の状況・課題について情報共有し、合同分析を行う。		

○「教員点検」は教員対象に実施した自己点検調査結果(1～5の5段階評価)の平均値
 ○「評価」は年間の取組について、4段階で評価
 A・・・十分に達成 B・・・おおよそ達成
 C・・・達成が不十分 D・・・ほとんど達成できず